



視写のススメ

主幹教諭 国語科 中田 照子

兵庫出身の私がひたすら書き写していたのは神戸新聞社の「正平調（せいへいちょう）」。いわゆる「天声人語」「春秋」「編集手帳」「筆洗」等のコラムの類いだ。それは小学校4年の時、担任の先生から課せられたミッションだった。文章を読んでも何が言いたいのか分からないことが多かったが、辞書を引いて分かる言葉は調べたり、どうしても分からないことは自営業の母親の手が空くタイミングをみて質問したりしながら、主張と思しきところに赤線を引いていた。

小5の時は算数の教科書写しがマイブームだったため「正平調」は御無沙汰気味だったが、小6でまた例の先生が担任になり、ミッション復活。ひたすら「正平調」の日々。このときは、文章を読むだけでは気付かないであろう「て・に・を・は」の使い方や「だからこの漢字の組み合わせでこういう熟語ができるのか！」などといったことに、書き写しながら目が行くようになった。また、活字に対する抵抗が薄れ、それまで本というものを読み切ることのなかった私が、ちょっと分厚めの文庫本を読み切れるようになったのは子供心に嬉しかった。

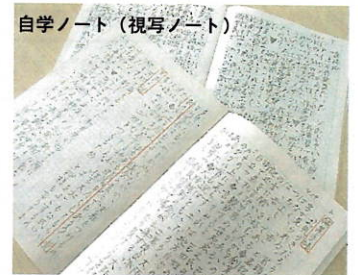
時は流れ、家から近い、ほぼ毎年全入の県立高校に入学した。電車で片道1時間半かかる進学校への入学を希望していた母は納得せず、周りからの評価も非常に低い学校であったが、私にとってはのんびりと好きなことをして過ごせる良い学校だった。でも、高校1年の終わり頃になると進路の話は避けて通れず、その頃母から「うちは母子家庭だから国立大しか行かせられないよ！」申し渡された。

高校の進路指導室で大学のいろはを教わり、国立は学費は安いが入るのが難しいと聞き、落胆した。しかも、家から通える範囲に国立大はなく、「どうするんだー!？」と思ったのも束の間。「……ということは都会暮らしのチャンス到来?!母の呪縛から解放される!!」とばかりに、田舎女子高生の受験スイッチONとなった。

話がだいぶそれたが、中学受験も大きな書店も進学塾もない超田舎の人間が大都会東京の大学に進学できたのは「正平調」のお陰だと今でも思っている。「正平調」を書き写す学習法は私に読む力・

書く力の基礎をもたらしただけでなく、他教科の勉強法にも工夫の余地を与えてくれた。また、毎日机の前に座る習慣や集中力、最後まで物事をやる粘り強さも与えてくれた。現在、仕事でたくさん書類を目にするが、何をどうすれば良いのか分からないとき、とりあえず自分に関係ありそうな部分を書き写しながら考えていくと、行間に隠れている重要事項が見えてくる。「正平調」の書き写しで得たことが、日々の仕事にも生きているということだ。

自学ノートに励んでいる生徒の皆さんの中には、まだその効果を実感できない人のほうが多くいることでしょう。どれぐらい写せばいいのかは



自学ノート(視写ノート)

人にもよるのでなんとも言い難いですが、まずは100ページ突破を目標に取り組んではいかががでしょう。「もう100ページ突破したよ」という人の次なる目標は100ページ。国語科からのミッションを毎回マックス果たしていれば、2年の3学期末にはトータル300ページに到達します。一緒に頑張りましょう。

卒業生が天中に時々顔を出してくれます。うれしいことに、「文章を書くのが苦じゃなくなりました」とか「現代文でみんなは何書いてあるか分からないとか言うんですけど僕はわりと分かるほうなんです」などと言ってくれます。その子たちは自学を継続して頑張っていた子たちです。卒業生の親御さん達も「作文で入賞したのは自学のお陰です」とか「新聞のコピーまで用意してくださるなんて、本当に恵まれていました。高校ではそんなお膳立てありませんからねえ」などと嬉しいことを言ってくださいませ。

自学ノートのみならず、すぐれた詩歌や文章の暗唱は、ある程度の量をやり遂げた人にはあとからジワジワ効いてくるようです。自学ノートや言霊百選の取り組みに意味を見いだせない人も、いつか花開くと自分を信じて取り組んでみてはいかががでしょうか。



小中合同
百人一首大会



区書初め展

令和元年度 教育調査（生徒）肯定率【回収率95%】

	項 目	1年	2年	3年	R1	H30
1	先生方は、クラスのみんが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	72.4	70.1	54	65	72.5
2	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように個別に教えてくれている。	39.8	54.5	32	40.8	49.4
3	校長先生や先生方は、私たちに学校の教育目標(自主 自律 共生)について、話をしたり考えさせたりしている。	64.3	59.7	66	63.2	66.3
4	先生方は、授業で自分ができたことをほめてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	60.2	77.9	53	62.1	65
5	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	74.5	83.1	67	74	75.7
6	先生方は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	55.1	62.3	69	62.1	65.2
7	先生方は、授業において電子黒板やデジタル教科書等を活用している。	81.6	89.6	82	83.8	76.1
8	先生方は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	59.2	59.7	49	55.2	64
9	先生方は、異なる考えや気持ちを持つ人との交流を大切にしている。	61.2	62.3	53	58.1	60.2
10	特別支援学級や校外の障がいのある同じ年くらいの子ともと交流する機会がある。	24.5	3.9	8	12.6	17.6
11	先生方は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	60.2	61	56	58.5	58.3
12	先生方はいじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、協力して取り組んでいる。	41.8	46.8	35	40.8	49
13	私たちは、教育目標の中の”自主”ということについて、日常生活で考えたり、行動したりしている。	61.2	54.5	54	56.7	54.4
14	私たちは、教育目標の中の”自律”ということについて、日常生活で考えたり、行動したりしている。	63.3	51.9	53	56	51.6
15	私たちは、教育目標の中の”共生”ということについて、日常生活で考えたり、行動したりしている。	62.2	58.4	53	57.4	55.9
16	先生方は、学校のような問題について地域・保護者と力を合わせて取り組んでいる。	49	55.8	35	45.5	52.5
17	教室・トイレ・校庭などの施設の清掃や整理・整頓などはきちんと出来ている。	54.1	58.4	35	48.4	47.2
18	学校では指導や訓練を通じて、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる。	77.6	85.7	76	79.1	71.8
19	私たちの学校には、自慢できる特色ある教育活動(ことだま、郷中、伝統文化教育やキャリア教育など)がある。	67.3	71.4	61	65.7	70.5
20	学校行事(運動会、学芸発表会、音楽発表、展示・舞台発表、校外学習など)が充実している。	60.2	67.5	61	62.1	66.5
21	総合的な学習の時間は、私たちが将来の生き方や進路を考える上で役立っている。	55.1	54.5	50	52.7	59.6
22	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たちと共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	65.3	57.1	48	56.3	63.2
23	先生方は、食べ物(栄養)と健康な生活とのかかわりについて、教えてくれている。	58.2	42.9	42	47.7	45.6
24	先生方は、いのちの大切さについて、教えてくれる。	68.4	66.2	72	68.6	65.5
25	先生方は、学校や地域での生活上のトラブル・危険を避けるための指導やルール作りについて適切な取り組みをしている。	65.3	61	56	60.3	61.3
26	私は、学校生活や友達との交流を楽しんでいる。	77.6	71.4	71	72.9	72.4
27	学校の生活のきまりやルールは納得できる。	67.3	54.5	43	54.9	60.9
28	学校の部活動は、自分の成長や学校生活を充実させることに役立っている。	62.2	66.2	53	59.6	62.7
29	先生方は、いじめや不登校を解決するために、いろいろな指導をしている。	50	44.2	33	41.9	45.8
30	職業学習、職場体験、上級学校訪問などのキャリア学習は自分の生き方や将来を考えるのに役立っている。	58.2	74	60	62.8	59.9
31	書道・華道・茶道、和楽器(太鼓・箏・三味線)、落語などの体験授業は日本の伝統文化理解に役立っている。	72.4	64.9	57	64.3	62.2
32	私は、学校からの配布物(学校だよりやお知らせ等)はきちんと保護者に渡している。	74.5	71.4	67	70.4	65.2
33	私は、保護者に学校の様子をよく話している。	69.4	55.8	52	58.8	61.8
34	フレンドシップスクールをはじめ、行事などの機会にコミュニケーションゲーム等を取り入れた学級づくりをしている。これは良い友だち関係をつくるのに役立っている。	79.6	66.2	56	66.8	64.7
35	先生方は、授業等を通して私たちの学力が確実に身につくよう指導している。	68.4	64.9	47	59.2	60.4
36	先生方は、私たちの興味関心を引き出し、よく分かるように工夫した教科指導を行なっている。	55.1	53.2	53	53.4	59.1
37	友だちや先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に、相談できる大人(先生、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の人など)がいる。	46.9	46.8	44	45.8	50.2
38	先生方は、私たちの学習面の良いところを認めてくれ、学習意欲が湧くような評価・評定をしている。	51	50.6	40	46.6	53.4
39	ことだま百選や英語のKOTODAMAなどの言葉の教育は言語への意欲を高めるのに役立っている。	48	50.6	30.8	44.8	60.2
40	先生方は、私たちがボランティア活動に参加し、社会体験活動をする機会をつくってくれる。これらによって自分のボランティア意識が高まっている。	61.2	54.5	40	51.3	55.7
41	多くの場面で1~3年生と一緒に活動する天沼郷中により先輩後輩達と交流し、学校生活がより幅広くなっている。	43.9	55.8	31	42.2	48.6

令和元年度 教育調査（保護者）肯定率【回収率92%】

	項 目	R1	H30
1	子どもの学校生活は全体として満足できるものである。	76.3	75
2	連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。	76.7	71.7
3	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	60.7	61.6
4	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	68.6	71.8
5	子どもは、学校の授業を通して、わかることやできることが増えている。	65.2	66.1
6	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	56.9	53.7
7	学校は、ICT機器(電子黒板やデジタル教科書等)を活用した授業を行っている。	54.7	60.4
8	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	66.7	70.6
9	子どもは、学校での生活を通して、他者とともによりよく生きるための力が育まれている。	68.4	74.8
10	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	46.8	44
11	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	72.3	71.1
12	いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。	51.3	49.1
13	天沼中学校の教育目標(自主・自律・共生)を知っている。	74.8	77.6
14	家庭の生活で、この教育目標が活かされている。	35.6	35.9
15	教育目標が学校経営や日々の教育活動に活かされていると思っている。	47.6	51.7
16	教師は、様々な課題や問題に地域や保護者と力を合わせて取り組んでいる。	58.4	59.3
17	学校は、教室や体育館、校庭あるいはトイレなどの施設・設備の清掃や整備に取り組んでいる。	44.8	54.9
18	学校は、地震や火事などへの災害に対する学校の安全性を高めたり危険を回避したりするための指導や訓練に取り組んでいる。	73.4	74.4
19	学校には、自慢できる特色ある教育活動(ことだま、郷中、伝統文化教育やキャリア教育など)がある。	81.5	77.8
20	学校の学校行事(運動会、学芸発表会、音楽発表、展示・舞台発表、校外学習など)が、充実している。	77.6	78.3
21	総合的な学習の時間は、生徒たちが将来の生き方や進路を考える上で役立っている。	51.3	55.3
22	教師は、道徳の授業を中心に生徒たちに社会のルールやマナーについて考えさせ、道徳性を養うよう指導している。	56.3	65.1
23	学校は、食事(栄養)と健康の関わりなどについて指導をしている。	56.3	64.8
24	学校は、命の大切さについて指導している。	68.8	68.6
25	学校は、生徒自身の学校生活上の安全やトラブル・危険の回避などについて指導している。	63.9	68.1
26	自分の子どもは、学校やクラスを楽しんでいる。	66.1	70.5
27	学校の学校生活のきまりやルールは納得できる。	75.6	80.7
28	学校の部活動は、生徒の成長や生徒が学校生活を充実させることに役立っている。	67.9	72.9
29	教師は、いじめや不登校の予防・解決のためにいろいろな指導や取り組みをしている。	50.2	56
30	保護者会の開催は十分に行われている。	76.6	72.9
31	学校公開の機会は十分にある。	84.3	85.1
32	学校からの連絡(メール、お知らせや学校・学年便りなど)や学校ホームページの内容や回数は適切である。	77.9	78.9
33	保護者会を通して、子どもや学校の様子が把握できている。	57.6	59.9
34	教師は保護者の相談によく対応している。	64	63.8
35	教師は、授業等を通して生徒の学力が確実に身につくよう指導している。	48.3	55
36	教師は、生徒の興味関心を引き出し、よく分かるように工夫した教科指導を行なっている。	44	59.4
37	教師は、生徒の生活の相談や学習に関する質問によく応じている。	52.1	62.4
38	教師は、生徒たちの学習面の良いところを認め、更に意欲を高めるような評価・評定をしている。	49.6	51.9
39	学校の教育計画(教育課程)について適切な説明がなされている。	59.8	62.6
40	学校は、生徒がボランティア活動に参加し、社会体験活動をする機会をつくり、生徒のボランティア意識の向上に努めている。	77.2	80.6
41	多くの場面で1～3年生と一緒に活動する天沼郷中により先輩後輩達と交流し、学校生活がより幅広くなっている。	57.4	62.8
	AV	63	65

令和元年度 教育調査(教職員)肯定率【回収率100%】

	項 目	R1	H30
1	児童・生徒や保護者から障害等への合理的配慮が求められた場合、校内委員会で検討し、実施に努めている。	77.8	88.9
2	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。	83.3	83.3
3	カリキュラム・マネジメントの視点に立って、教科間のつながりを踏まえた教育活動に取り組むとともに、計画的な評価・改善を行っている。	77.8	83.3
4	各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画を作成している。	77.8	77.8
5	学び残しやつまずきを減らし、全ての児童・生徒の学力を向上させるための授業を行っている。	77.8	77.8
6	授業では、一斉学習、子どもたち主体の個別学習と協働学習を組み合わせている。	88.9	88.9
7	各教科等において、ICT機器(電子黒板やデジタル教科書等)を活用した授業を行っている。	88.9	83.3
8	学習指導要領に基づく各教科等の目標や内容の系統性を理解し、学年や小・中学校の接続を踏まえた授業を行っている。	72.3	72.2
9	連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる。	88.9	77.7
10	特別な支援が必要な児童・生徒に対して、校内委員会で検討し、個別の教育支援計画を作成している。	83.3	88.9
11	授業や教育活動において、地域の人材を計画的に活用している。	83.3	77.7
12	「杉並区いじめ防止対策推進基本方針」に則り、いじめの未然防止、早期発見、解決に向けた取組に迅速に対応できる組織をつくっている。	83.4	100
13	特別な支援が必要な児童・生徒に対して、個別の教育支援計画に基づく個別指導計画を作成・実施している。	83.3	94.4
14	教育目標が浸透するように生徒に教えている。	77.7	83.3
15	教育目標が日々の教育活動に生かされていると思っている。	72.2	77.8
16	教師は学校の様々な課題や問題に地域・保護者と力を合わせて取り組んでいる。	77.8	94.5
17	学校は、教室や体育館、校庭あるいはトイレなどの施設・設備の清掃や整備に取り組んでいる。	44.5	77.8
18	学校は、地震や火事などへの災害に対する学校の安全性を高めたり危険を回避したりするための指導や訓練に取り組んでいる。	88.9	100
19	学校には自慢できる特色ある教育活動(ことだま、郷中、伝統文化、キャリア教育など)がある。	72.2	88.9
20	学校の学校行事(運動会、学芸発表会、音楽発表、展示・舞台発表、校外学習など)が、充実している。	61.1	94.4
21	総合的な学習の時間は、生徒たちが将来の生き方や進路を考える上で役立っている。	72.2	77.7
22	学校は、道徳の授業を中心に生徒たちに社会のルールやマナーについて考えさせ、道徳性を養うよう指導している。	77.7	83.3
23	学校は、食事(栄養)と健康の関わりなどについて指導をしている。	66.7	83.3
24	学校は、命の大切さについて指導している。	83.3	83.3
25	学校は、生徒自身の学校生活上の安全やトラブル・危険の回避などについて指導している。	88.9	94.5
26	生徒は、学校やクラスを楽しんでいる。	50.0	83.3
27	生徒は、学校の学校生活のきまりやルールに納得している。	55.6	72.2
28	学校の部活動は、生徒の成長や生徒が学校生活を充実させることに役立っている。	72.3	72.2
29	学校は、いじめや不登校の予防・解決のためにいろいろな指導や取り組みをしている。	83.3	94.4
30	保護者会の開催は十分に行われている。	88.9	94.5
31	学校公開の機会は十分にある。	94.5	94.5
32	学校からの連絡(メール、お知らせや学校・学年便りなど)や学校ホームページの内容や回数は適切である。	88.9	100
33	保護者会を通して、子どもや学校の様子を保護者に把握してもらえている。	77.7	88.9
34	学校は保護者の相談によく対応している。	88.9	100
35	本校の教員は、授業等を通して生徒の学力が確実に身につくよう指導している。	77.8	94.5
36	本校では、生徒の興味関心を引き出し、よく分かるように工夫した教科指導を行なっている。	83.4	88.9
37	本校の教員は、生徒の生活の相談や学習に関する質問によく応じている。	88.9	94.5
38	本校の教員は、生徒たちの学習面の良いところを認め、更に意欲を高めるような評価・評定をしている。	72.2	83.3
39	学校の教育計画(教育課程)について適切な説明がなされている。	72.3	94.4
40	学校は、生徒がボランティア活動に参加し、社会体験活動をする機会をつくり、生徒のボランティア意識の向上に努めている。	77.8	94.5
41	多くの場面で1～3年生が一緒に活動する天沼郷中により先輩後輩達と交流し、学校生活がより幅広くなっている。	55.6	66.6
		AV 77.5	87

1 全学年生徒の結果について

①昨年度との比較

- ・全項目の平均肯定率でみると、昨年度が59%、今年度が57%と2ポイント下がった。
- ・昨年度と比べ肯定率が高まった項目は14項目、低くなった項目は27項目であった。
- ・昨年度と比べ肯定率が高まった項目（上位5つ）
 - （問7） 「ICT教育」83.8%（+7.7）
 - （問18） 「安全指導」79.1%（+7.3）
 - （問32） 「配布物」70.4%（+5.2）
 - （問14） 「教育目標・自律」56%（+4.4）
 - （問24） 「いのちの教育」68.6%（+3.1）
- ・昨年度と比べ肯定率が下がった項目（下位6つ）
 - （問8） 「健康教育」55.2%（-8.8）
 - （問2） 「個別指導」40.8%（-8.6）
 - （問12） 「いじめ・不登校」40.8%（-8.2）
 - （問1） 「学級指導」65.0%（-7.5）
 - （問21） 「キャリア教育」52.7%（-6.9）
 - （問22） 「道徳教育」56.3%（-6.9）

②今年度の状況

- ・肯定率70%以上の項目
 - （問7） 「ICT教育」83.8%
 - （問18） 「安全教育」79.1%
 - （問5） 「分かる授業」74.0%
 - （問26） 「楽しい学校生活」72.9%
 - （問32） 「配布物」70.4%
- ・肯定率45%以下の項目
 - （問10） 「特別支援教育」12.6%
 - （問2） 「個別指導」40.8%
 - （問12） 「いじめ・不登校」40.8%
 - （問29） 「いじめ・不登校」41.9%
 - （問41） 「郷中教育」42.2%
 - （問39） 「言葉の教育」44.8%

2 全学年の分析と考察

・全体での肯定率は2ポイントの低下であったが、肯定率が低くなった項目数が27と、高まった項目数14の約2倍あった。平均では表れない変化として注視する必要がある。昨年度に比べ肯定率が高まった項目は、どれも今年度重点的に取り組んだ項目のため目標とする数値には及ばなくとも良好な結果と捉えるが、低下した項目は「保健指導」「教科指導」「生活指導」「学級指導」「進路指導」「道徳教育」と、学校教育全般に及んでいる。今年度の特徴としては、地道に行ってきた項目が比較的高い肯定率を示したが、十分満足するまでには高まっていない。一方、いじめ・不登校対応の肯定率が昨年度よりさらに低くなった。年2回のいじめアンケートでは1～2件の報告のため生徒の学校生活は一見平穏と見られたが、結果を見る限りいじめは、大きな問題に至らなくとも日常的にあるものと受け止めなくてはならない。安心・安全な学校は経営方針であることから教職員全体でこの問題については再考する。不登校については年度途中で起きるケースもあり、生徒の捉え方には信ぴょう性がある。0-U（学級診断のための心理テスト）の結果の活用やおしゃべりワークなどが予防的措置として機能しているかも問われる。ただ、対応についてはプライバシーもあるため生徒には見えにくい問題でもあるだろう。また、本校の特徴として掲げる郷中教育や言霊についても肯定率が低い。しかし、3年生の面接練習などで聞く限り、特徴としてほとんどの生徒が取り上げる。よって、多くの生徒は、形態は認めてもその意義や効果については見いだせておらず、意欲に結び付いていないのではないかと思える。教員の入れ替わりなどにより形骸化していないか、また、振り返りにより丁寧な指導を加えているか、さらに役立つ実感を味合わせているか、などについて検証しなければならない。

3 第1学年の結果について

①1年生の特徴

- ・全項目の平均肯定率は、3学年中最も高く60%であった。
- ・肯定率のクラス間格差が大きく、高いクラスの平均が72%であったのに対し低いクラスは46%と、26%の差が生じた。
- ②全学年の平均肯定率との比較
 - ・1年生が低かった項目は全41項目中8項目あった。2ポイント以上差があったのは以下の3項目である。（ ）は全学年との差を示す。
 - （問6） 「学びの連続性」55.1%（-7.0）
 - （問7） 「ICT教育」81.6%（-2.2）
 - （問30） 「キャリア教育」58.2%（-4.6）
 - ・1年生が高かった項目は全41項目中33項目あり、差が大きい上位8項目は以下の通りである。
 - （問34） 「フレンドシップスクール」79.6%（+12.8）
 - （問27） 「校則」67.3%（+12.4）
 - （問10） 「特別支援教育」24.5%（+11.9）
 - （問33） 「家庭連携」69.4%（+10.6）
 - （問23） 「食育」58.2%（+10.5）
 - （問40） 「ボランティア」61.2%（+9.9）
 - （問22） 「道徳教育」65.3%（+9.0）
 - （問35） 「学習指導」68.4%（+9.2）

③1年生の状況

- ・肯定率上位（8項目）は以下の通りである。
 - （問7） 「ICT教育」81.6%
 - （問34） 「フレンドシップスクール」79.6%
 - （問18） 「安全指導」77.6%
 - （問26） 「学校生活」77.6%
 - （問5） 「学習指導」74.5%
 - （問32） 「配布物」74.5%
 - （問1） 「学級指導」72.4%
 - （問31） 「伝統文化教育」72.4%
- ・肯定率下位（7項目）は以下の通りである。
 - （問10） 「特別支援教育」24.5%
 - （問2） 「個別指導」39.8%
 - （問12） 「いじめ・不登校」41.8%
 - （問41） 「郷中教育」43.9%
 - （問37） 「教育相談」46.9%
 - （問39） 「言葉の教育」48.0%
 - （問16） 「地域連携」49.0%

4 第1学年の分析と考察

・1年生の平均肯定率は60%と今年も全学年中最も高かったが、2年生が58%とその差は2%に過ぎず、例年に比べても1年生の肯定率は高いとは言えない。その要因は、3の特徴でも触れたようにクラス間格差にあると思われる。クラスによって26%の差が生じたのはなぜだろうか。高いクラスと比較して平均で40%以上の差が生じた項目は（問1「学級指導」、31「伝統文化教育」、36「学習指導」、40「ボランティア活動」であった。この中で核とみられるのは問1の「学級指導」ではないかと考え、昨年6月に実施した「0-Uテスト」という学級診断のための心理テストの分析を参照した。その分析結果を見て分かったことは、低いクラスに「非承認群」の生徒が多いことだった。全国平均が18%のところ27%であった。これは、学級内で認められることが少ない生徒が多いと診断できる。対応としては、学校生活が満足できるように、意欲が低い生徒に対して、できていること、やれていることを言葉にして認めてあげることが必要である。さらに、生徒同士が認めあえる場を設定し、承認感を高めていかななくてはならない。他の肯定率もこうした学級が居心地の良い場になれば改善できるものと思われる。

5 第2学年の結果について

①2年生の特徴

- ・全項目の平均肯定率は58%で全学年中2番目の数値であった。
- ・全学年中2年生が最も高い肯定率を示した項目は41項目中21項目あった。
- ・2年生が最も低い肯定率だったのは、問10、14、24の3項目であった。

②昨年度との比較

- ・昨年度と比べ肯定率が高まったのは15項目あり、比率の高い上位5項目は以下の通りである。

(問30)「キャリア教育」74.0% (+27.7)
(問7)「ICT教育」89.6% (+10.8)
(問4)「学習指導」77.9% (+10.4)
(問2)「個別指導」54.5% (+8.2)
(問9)「学びの連続性」62.3% (+6.0)

- ・昨年度に比べ肯定率が低下したのは26項目あり、比率の高い下位5項目は以下の通りである。

(問39)「言葉の教育」50.6% (-19.4)
(問36)「学習指導」53.2% (-11.8)
(問33)「家庭連携」55.8% (-10.5)
(問20)「学校行事」67.5% (-8.8)
(問23)「食育」42.9% (-8.4)

③2年生の状況

- ・肯定率上位(8項目)は以下の通りである。

(問7)「ICT教育」89.6%
(問18)「安全指導」85.7%
(問5)「分かる授業」83.1%
(問4)「学習指導」77.9%
(問30)「キャリア教育」74.0%
(問19)「特色ある教育活動」71.4%
(問26)「学校生活」71.4%
(問32)「配布物」71.4%

- ・肯定率下位(5項目)は以下の通りである。

(問10)「特別支援教育」3.9%
(問23)「食育」42.9%
(問29)「いじめ・不登校」44.2%
(問12)「いじめ・不登校」46.8%
(問37)「教育相談」46.8%



6 第2学年の分析と考察

- ・全学年で最も肯定率が高かった項目が約半数あったことは2年生が全校の中心的役割を果たしていると考えられる。ただ、問14の「教育目標」や問24の「いのちの教育」で全校中最も肯定率が低かったため、今後、学校をリードしたり、人間性を育む上で不安が残る。伸び率の面で際立った「キャリア教育」は、職場体験の事前・事後の学習を丁寧にを行った結果と捉える。また、「ICT教育」は、現状の取り組みを考えれば妥当な肯定率にも思えるが、問36の「学習指導」(興味関心を引き出す工夫した教科指導)に結び付いていない点が課題である。他の学習指導面では細部に丁寧に指導している結果が出ているだけに、ICTの教材内容が問われているように思える。問39「言葉の教育」が昨年に比べ20%近く低下した。言葉百選やKOTODAMAが言語への意欲を高めていると実感できていない生徒が多く存在する。言語への意欲という言葉がやや抽象的ではあるが、言葉の意義が理解されずにやらされている感が強いのではなからうか。将来において役立つことは卒業した多くの生徒が認めていることから、有益性について様々な機会を通じて生徒に伝えていかなければならない。問33の「家庭連携」は保護者に学校の様子をよく話すかであるが、中2という時期を考えれば肯定率が下がることもうなずける。ただ、問20「学校行事」の肯定率が下がったことは、2年生が中心的存在であるだけに活気が失われかねない。学校行事の充実を図るため、自主的な活動となるよう生徒に委ね、達成感や成就感を味合わせたい。また、行事が立て込み忙しいという生徒・教員がいる。心の

準備や練習、作業に充てる時間を十分取れるように教育課程を再検討して対処を図りたい。問12、29の「いじめ・不登校」についての肯定率が50%を切った。学校の対応について生徒は半数が不十分とみている。その背景には、いじめの認知と解決の不完全があるだろう。アンケートを頼りすぎて、いじめの実態を見過ごしてはならない。また、いじめを訴えやすい基盤をつくることも重要である。不登校対応は生徒に見えにくく説明も困難だが、級友が心配している気持ちを汲み取った指導が必要であろう。そのためにも問37の「教育相談」機能をもっと高めていかなければならない。

7 第3学年の結果について

①3年生の特徴

- ・全項目の平均肯定率は49%で全学年中最も低い数値であったが、昨年度に比べ2%高まった。
- ・全学年中3年生が最も高い肯定率を示した項目は41項目中3項目、最も低い肯定率が33項目あった。
- ・肯定率のクラス間格差が著しく、高いクラスの平均が66%であったのに対し低いクラスは26%と40%の差が生じた。

②昨年度との比較

- ・昨年度と比べ肯定率が高まったのは23項目あり、比率の高い上位7項目は以下の通りである。

(問18)「安全指導」76% (+21.6)
(問7)「ICT教育」82% (+18.5)
(問32)「配布物」67% (+16.5)
(問14)「教育目標(自律)」53% (+16.1)
(問24)「いのちの教育」72% (+16.1)
(問13)「教育目標(自主)」54% (+15.2)
(問15)「教育目標(共生)」53% (+14.2)

- ・昨年度に比べ肯定率が低下したのは18項目あり、比率の高い下位6項目は以下の通りである。

(問39)「言葉の教育」30.8% (-18.2)
(問10)「特別支援教育」8% (-13.6)
(問29)「いじめ・不登校」33% (-13.5)
(問2)「個別指導」32% (-11.7)
(問16)「地域連携」35% (-11.6)
(問38)「評価・評定」40% (-11.5)

③3年生の状況

- ・肯定率上位(4項目)は以下の通りである。

(問7)「ICT教育」82%
(問18)「安全教育」76%
(問24)「いのちの教育」72%
(問26)「学校生活」71%

- ・肯定率下位(5項目)は以下の通りである。

(問10)「特別支援教育」8%
(問39)「言葉の教育」30.8%
(問41)「郷中教育」61.0%
(問2)「個別指導」32.0%
(問29)「いじめ・不登校」33.0%

8 第3学年の分析と考察

- ・3年生は7-①の通り、全学年中最も平均肯定率は低かったが、2年生だった昨年に比べ平均肯定率が高まり、41項目中23項目で肯定率がアップした。平均を見る限りは学校生活が改善に向かっていると見られる。ただ、3クラスしかない中で、クラス間格差が著しいことが大きな問題である。小学校とは異なり、教科担任制である中学校で、高いクラスと低いクラスで40%もの平均差が出ることは珍しく、学級が何か大きな問題を抱えていると判断せざるを得ない。本調査では特定の項目が低いのではなく、ほぼすべてが学年内最も低い肯定率だったことから、クラスの問題点を探るため昨年6月に実施したO-U(学級診断のための心理テスト)の結果を参考に分析した。その結果、他の2クラスと比較すると2つの特徴があることがわかった。一つは、「侵害行為認知群」といったいじめや悪ふざけを受けていたり他の生徒と

トラブルがある可能性が高いとされる生徒が多いことである。全国平均が13%であるのに対し29%を示し、他の2クラスは9%、11%であった。二つ目は、一つ目にも関連するが「学級との関係」の結果が低かったことである。「自分のクラスは仲の良いクラスか」「ほっとするか」「クラスの活動は楽しいか」「クラスに貢献しているか」という質問に対し著しく他クラスや全国平均値を下回っていた。低いと診断された生徒数も他の2クラスが8名、12名であるのに対し、19名があがっている。以上のことから、学校生活への意欲が低い生徒が、他クラスに比べ多く存在したことが肯定率の低迷に結び付いているものと考えられる。今後の対応としては、学級に所属感が持てない生徒が多くいることから、関わりをもたせ生徒同士で行う活動から個別の目標に向かう取り組みを支援するようにする他、前向きな姿勢が見られない生徒には個別に指導し、その体制を担当が見せていくことが必要と考える。

9 保護者の結果と考察

①保護者の結果

・肯定率の平均は63%で昨年度より2ポイント下回った。
・昨年度に比べ肯定率が高まった項目は、41項目10項目で、低くなった項目は31項目だった。

②昨年度との比較

・昨年度に比べ肯定率が高まった項目は10項目あり、伸び率の高い上位5項目は以下の通りである。

- (問2) 「小中一貫教育」76.7% (+5.0)
- (問30) 「保護者会」76.6% (+3.7)
- (問19) 「特色ある教育」81.5% (+3.7)
- (問6) 「評価・評定」56.9% (+3.2)
- (問10) 「特別支援教育」46.8% (+2.8)

・昨年度に比べ肯定率が低下したのは31項目あり、低下率の高い下位5項目は以下の通りである。

- (問36) 「学習指導」44.0% (-15.0)
- (問37) 「教育相談」52.1% (-10.0)
- (問22) 「道徳教育」56.3% (-8.8)
- (問23) 「食育」56.3% (-8.5)
- (問35) 「学習指導」48.3% (-6.7)

③保護者の状況

・肯定率75%以上のは以下の9項目であった。

- (問31) 「学校公開」84.3%
- (問19) 「特色ある教育」81.5%
- (問32) 「家庭連携」77.9%
- (問20) 「学校行事」77.6%
- (問40) 「ボランティア活動」77.2%
- (問2) 「小中一貫教育」76.7%
- (問30) 「保護者会」76.6%
- (問1) 「学校生活」76.3%
- (問27) 「校則」75.6%

・肯定率50%未満は以下の7項目であった。

- (問14) 「教育目標」35.6%
- (問36) 「学習指導」44.0%
- (問17) 「施設管理」44.8%
- (問10) 「特別支援教育」46.8%
- (問15) 「教育目標」47.6%
- (問35) 「学習指導」48.3%
- (問38) 「評価・評定」49.6%

④保護者の分析と考察

・昨年度に比べ平均肯定率が下回った主な原因は、学習指導や評価に関する項目の低下が考えられる。特に学習指導については低下率が最も高く、また、50%未満の低い肯定率にも2項目が含まれている。近年、家庭と連携を取るにあたり、子どもの成績に関することで家庭問題となるケースが増加しているように思う。授業参観等で学習状況を見ていただき、生徒が取り組んでいることに対し、やってきていること、できていることを承認していただけるように、学校は方策を考え、努力する必要がある。一方で、学習以外の学校の

取り組みについては理解が高まっているように思う。伸び率の高まった小中一貫教育や保護者会の開催、特色ある教育活動のほか、比較的高い肯定率となった学校行事やボランティア活動は、学校への関心が高まってきた結果と見たい。より家庭に情報が正確かつ迅速に伝達できるように、学校は昨年改訂したホームページやメール連絡および学校・学年だよりの充実に努めていきたい。

10 教員の結果と考察

①保護者の結果

・教員の平均肯定率は、生徒・保護者三者の中で最も高かった。

・平均肯定率は78%となり、昨年度に比べ9%低下した。
・昨年度に比べ肯定率が高まった項目は5項目、低下した項目は29項目あった。

②昨年度との比較

・昨年度に比べ肯定率が高まった上位3項目は以下の通りである。

- (問9) 「小中教員の連携」88.9% (+11.2)
- (問7) 「ICT教育」88.9% (+5.6)
- (問11) 「地域人材の活用」83.3% (+5.6)

・昨年度に比べ肯定率が低下した会3項目は以下の通りである。

- (問17) 「施設管理」44.5% (-33.3)
- (問20) 「学校行事」61.1% (-33.3)
- (問26) 「学校生活」50.0% (-33.3)

③今年度の状況

94.5% (問31) 「学校公開」
88.9% (問6) 「授業形態の工夫」 (問7) 「ICT教育」

- (問9) 「小中教員の連携」
- (問18・25) 「安全指導」
- (問30) 「保護者会」
- (問32・34) 「家庭連携」
- (問37) 「教育相談」

・肯定率の下位は以下の通りである。

- (問17) 「施設管理」44.5%
- (問26) 「学校生活」50.0%
- (問27) 「校則」55.6%
- (問41) 「郷中教育」55.6%

④教員の分析と考察

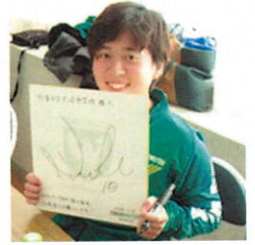
・今年度は「学校の棚卸し」が課題となったため、例年以上に教員が各項目を吟味した。その結果、昨年に比べ平均肯定率が下がったことは本来の評価に迫ったと考えられよう。子どもたちのためにも思い、どんなに労力がかかっても継続して行ってきたことに、今度は「働き方改革」が加わった。それにより今年度は、従来とは異なる基準や価値観で評価した教員も多かったのではなからうか。その中で、廃止や省略という選択ももちろん考えられようが、生徒に何を身に付けさせたいか、何ができるようになってほしいかに焦点を絞ることによって、踏襲に依存せず、指導時間の短縮も図れるものと思える。「働き方改革」により教育の質が低下してはならない。だからこそ効率よくスマートな教育課程が求められている。そこで教員が行うのは、時間とカリキュラムをマネジメントし、最高の教育を提供することである。「働き方改革」は教員が「どう教えるか」「どう伝えるか」という資質の向上無くしては果たせないであろう。

以上の調査結果、学校による自己分析を元に、学校関係者評価委員会に依頼し、学校評価を進めていただいています。結果は3月発行の学校運営協議会だよりをご覧ください。またこれを元に、次年度の教育課程の編成も勤めております。その方向性について、次号にてお知らせいたします。

ようこそ天沼中学校へ

サッカー女子日本代表

がんばれ! 靱木 結花 先輩!



講演の冒頭、靱木結花選手が^{もみきゆうか}出場した国際大会でのPKでゴールを決める様子など、靱木選手の活躍する姿を動画で見ました。サッカーをあまり見たことのない生徒もこんなすごい選手が天中の先輩なんだ!と感動。



靱木結花選手は、平成 23 (2011) 年度卒。川原先生、河西先生、明石先生は靱木選手の中学時代を覚えています。

在学中に日テレ・ベレーザで初出場、初ゴール。2017 年にはなでしこジャパン (日本代表) デビュー。背番号は 10。現在、企業に勤め、退勤後に練習、という生活を送っています。インタビューの中にも「日常生活」「今」を大切に積み重ねることの大切さを多く語ってくれました。

私は世界で一番小さいサッカー選手です

「だから、20 cmも 30 cmも大きい選手と対抗するために、スピードや動きで相手のパワーに負けないようにしています。」という靱木選手は、身長 153 cm。日本代表女子選手では一番小さいのだそうです。だから、「世界一小さい」と。その靱木選手は、平成27年度から、母校天沼中で生徒と交流してくださっています。

オリンピックイヤーの今年。今回は全校生徒を前に、生徒からの質問にも丁寧に答えてくれました。

Q. 普段、継続していることはありますか。

靱木: サッカー以外の見聞を広めることは大事なので、普段はよく読書をしています。

Q. お薦めの本は?

靱木: そうですね、「七つの習慣」という本、ぜひいつか読んでみてほしいと思います。

Q. 試合前のルーティーンは作っていますか。

靱木: 特に作らないようにしています。というのは、試合の前には何があるか分からない、移動中のバスが遅れることもある、ルーティーンを決めていてもできないこともあり、そんなときに慌てないように柔軟に対応するため、決めていないのです。

Q. 男子サッカーで好きな選手は?

靱木: メッシが好きです。メッシもあまり大きくない選手なので。

Q. ごはんは何メシが好きですか?

靱木: ((笑)) ヒルメシ?

Q. 好きなコンビニは?

靱木: 代表選手になるとなかなかそういうのは公^{おおや}けには言えないんで難しいですが…、セ……が好きです。



全校生徒と記念写真

Q. これまでに過酷な環境での試合はどんな環境でしたか。

靱木: パプアニューギニアで、貧しい家やこわれそうな家を見ながら、外気温より暑い更衣室にいられず、メンバーと一緒に建物の影で待機していたりしました。

Q. 天中時の思い出は?

靱木: 学校が終わるとすぐ駅に向かい、サッカーの練習に行っていたので、行事とかではなくて、休み時間のおしゃべりとか、たわいのない日常がとても思い出に残っています。(給食のサンプルを「食べちゃおう!」と、友達と一緒に食べちゃったりしました)

Q. 緊張しない方法を教えてください。

靱木: 「今」に意識を向けること。過去も未来も周りも大事だけれど、今、このときに意識を向けることで必ず今が未来につながっていくと思います。

Q. サッカーを辞めたいと思ったことは?

靱木: 幸いなことに周囲にも恵まれ、一度もありません。あなたは何か辞めたいと思ったことは?

Q. 勉強、……。

靱木: 私も生徒の時は勉強がそんなに好きではなかったけど、学んだことはいつか将来につながっていくし、あのときもう少しちゃんとやればと思うことが多いから、頑張ってる。

Q. 2020オリンピックに向けてといつまでサッカーを続けるのかを教えてください。

靱木: 日本でのオリンピックの場に立てること自体すばらしいこと。日本の女子サッカーは 2011 年に世界一をとっている。世界一になるのは最低条件だと思っている。でも、何のための世界一かというと、私には目標があって、今は男女平等の社会だけれどもまだまだ日本では女子の環境が追いついていない。いろいろな場所で活躍する女性に向けてという気持ちがある。女子サッカーが頑張ることで世の中がいい影響があればと。

また、これから、サッカーをやってなければ行けない国々を回ったり、海外でプレーをしたりして、40歳くらいまで続けていきたいです。

来年は、「金メダルの靱木選手」としてまたここに来させていだきたいと思っています。



↑インタビューに答える靱木選手 1年生と交流試合

1枚1枚丁寧にサインをしてくださいました。背番号10のマークがかわいい! →

←「相手のボールを取りに行くときに相手の足を蹴らない方法」について直接、ご指導



おみやげのサインも、お楽しみが満載ですよ!